

科目名	異文化と言語 A	科目コード	1138	単位数	2
担当者名	原子 智樹	開講セメスター	第1セメスター	開講年次	1年次
授業の方法	講義	実務経験	無		

● 授業のねらい

複数の側面から英語の日本語訳について実際と限界とを概観します。それにより両言語間の違いが諸々の文化的違いにつながっていることがわかるように学びます。このためには、英語の日本語訳に興味があり、かつコンピュータ（パソコン）の基本操作（ファイル操作、ワープロソフトおよびブラウザ）を理解している受講者が望ましいです。また希望者は、本科目で定めた形式でレポートを作成し、添削を経て口頭発表します。（秋季セメスターも、同様に実施。）

● 到達目標

印刷英文書類・インターネット上の英文書類の基本を理解することができます。また、レポート作成を選択した受講者は、参考書R1に定めた手順でレポートを作成し、その発表を通じて自らを客観的に振り返られる素地を得ることができます。

● 授業内容

- 1週目 「異文化と言語 A」 概要解説
- 2週目 英語の数量表現
/ レポート作成の簡易説明（多くはCoursePower上の資料を参照）
- 3週目 英文ホームページの基本
検索サイトによるインターネット上の英語ウェブサイト検索
インターネット上の辞書サイト
- 4週目 英文ホームページの日本語訳について
インターネット上の翻訳サイト、他
インターネットサイト使用による結果と限界
/ レポート作成の確認
- 5週目 英文メール・FAX等の基本
- 6週目 英文メール・FAX等の日本語訳について

- 7週目 英文メール・FAX等の日本語訳実例 [1] (英文メール)
- 8週目 英文メール・FAX等の日本語訳実例 [2] (メール)
- 9週目 英文メール・FAX等の日本語訳実例 [3] (FAX)
- 10週目 企業概要紹介英文の日本語訳実例 [1] (国内業界関連)
- 11週目 企業概要紹介英文の日本語訳実例 [2] (国外業界関連)
- 12週目 特殊な英文読解例
/ レポート締切
/ ブックレット提出締切
- 13週目 他のメディアにおける日本語と英語
- 14週目 レポート発表（第1回）
- 15週目 レポート発表（第2回）
- 16週目 前回までの主な内容のまとめ

● 準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

開講後に配布するブックレットに記した内容の復習が随時必要です（週30分～60分程度）。また、5週目から9週目の内容は、より充分な復習時間を要します。他にも、レポート作成を選択する受講者は、レポート作成の準備（6週目）から完成（12週目）の期間に各授業時間数の倍程度を要する見込みです。

● 成績評価の方法・基準

- 1 ブックレットを使用する課題（各週授業内の諸々の課題） 70%
- 2 小レポート及び小テスト 数回（CoursePowerで実施） 15%
- 3 任意で【参考書 R1 第4章】に準じたレポート作成および可能な場合はその口頭発表（レポートは複数回の添削（提出・返却）を経て完成させます。）（CoursePowerや添付メールにより実施） 15%

● 履修上の留意点

内容・予定の微調整は講義担当者の判断に委ねられます。
主に使用する予定のLMSは、CoursePowerと大学アカウントGmailとです。連絡事項は研究室扉横に都度通知します。オンラインでの連絡はCoursePowerの 掲示板 機能を多用します。
上記3の「レポート作成およびその発表」を選択する受講者は 参考書 R1 を図書館の教員図書コーナーあるいはCoursePower上で参照してください。進行が対面かオンラインかあるいはその併用かなどにより、14週・15週の予定は中止して別の内容に変更となる場合も想定しています。

● 課題に対するフィードバックの方法

諸課題の途中経過への論評は配布する「ブックレット」に必要な応じコメントを付し、また、レポート作成者については提出・添削・返却を繰り返してフィードバックします。

● テキスト

特になし

● 参考書

- R1 『10代後半の英語復習サブ・テキスト』 共同文化社（本学図書館の教員図書コーナー所蔵。第2セメスターも同様。）
- R2 英和辞典（電子辞書も推奨）
- R3 [配付資料] CoursePower上のコンピュータ・ファイル等、他に適宜紹介。

